

科目名	プレゼンテーション			ナンバリング	IGN271	授業形態	演習
対象学年	4	開講時期	前期	科目分類	必修	単位数	2 単位
代表教員	林正彦	担当教員	林正彦○、野原幸男、渡邊義久○、石川暁史				

授業の概要	イグナイト教育の成果を基に、薬学的知識の定着と活用を図り、また医療薬学的課題を調査・情報整理・分析し、まとめて 発表する能力の醸成、及びチーム活動により問題解決力やコミュニケーション力を身につけることを目的とする。						
到達目標	1 確かな薬学の専門知識を説明することができる。 2 薬学的知識を活用し、課題を調査・情報整理・分析し、まとめて発表することができる。 3 チーム活動に貢献するコミュニケーションをとることができる。						
学習のアドバイス (勉強方法、履修に必要な予備知識など)	教科書などを活用し、必要最低限の知識を学修しておくこと。						
ディプロマポリシーとの関連	【薬学部薬学科のディプロマポリシー】						
	○	1. 薬剤師の社会的義務を認識し、医療の担い手としてふさわしいヒューマニズムと倫理観を具現できる。					
	○	2. 医療分野における問題点を発見して解決するために、研究マインドと知識を統合・活用する力を有する。					
	○	3. 患者本位の医療を実施するために、チーム医療における円滑なコミュニケーションをとることができる。					
		4. 地域の医療および保健に貢献するために、薬剤師としての実践的能力を有する。					
	○	5. 薬剤師として科学と医療の進展に対応するために、生涯にわたって持続可能な主体的学習ができる。					

標準的な到達レベル(合格ライン)の目安	理想的な到達レベルの目安
1 生化学的検査値や画像診断、症状から疾患・症候群を判定することができる。 2 グループ内での討議に参加することができる。 3 正しい知識を正確に検索することができる。	1 確かな薬学の専門知識を説明することができる。 2 薬学的知識を活用し、課題を調査・情報整理・分析し、まとめて発表することができる。 3 チーム活動に貢献するコミュニケーションをとることができる。

成績評価観点 評価方法	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合
定期試験(中間・期末試験)							
小テスト・授業内レポート	○						10%
宿題・授業外レポート	○	○					30%
授業態度・授業への参加	○	○	○	○			30%
プレゼンテーション					○		30%

課題、評価のフィードバック	授業中に教員からのフィードバックを行う。
---------------	----------------------

	回次	テーマ	授業内容	備考
授業計画	第1回	[Phase1] 各種疾患とその治療薬に関する課題(1) ①調査	【予習】事前に与えられた課題(疾患症例)に対して、代表的な薬物療法、薬物療法を施す際の薬剤師の姿勢・行動、知識・責務、倫理ならびに技能等について参考書や資料を調査してまとめる。	
	第2回	②調査のまとめ	課題についてグループ全員で検討し、適切な治療薬を選択するため、生化学的検査や画像診断、症状から判断される必要な調査項目を選定し、各自がその項目を分担して調べる。	
	第3回	③グループワーク	調査終了後、グループ内で調査結果を報告し合い、全体発表に向けて内容を整理し、発表の要点について、さらに検討を深める。	
	第4回	④全体発表・討論とまとめ	【予習】発表練習をしておくこと。【復習】全体発表評価表・貢献度評価表に批評されたコメントを読んでおくこと。	
	第5回	[Phase 2] 各種疾患とその治療薬に関する課題(1) ①調査	【予習】事前に与えられた課題(疾患症例)に対して、代表的な薬物療法、薬物療法を施す際の薬剤師の姿勢・行動、知識・責務、倫理ならびに技能等について参考書や資料を調査してまとめる。	
	第6回	②調査のまとめ	課題についてグループ全員で検討し、適切な治療薬を選択するため、生化学的検査や画像診断、症状から判断される必要な調査項目を選定し、各自がその項目を分担して調べる。	
	第7回	③グループワーク	調査終了後、グループ内で調査結果を報告し合い、全体発表に向けて内容を整理し、発表の要点について、さらに検討を深める。	
	第8回	④全体発表・討論とまとめ	【予習】発表練習をしておくこと。【復習】全体発表評価表・貢献度評価表に批評されたコメントを読んでおくこと。	
	第9回	[Phase 3] 各種疾患とその治療薬に関する課題(1) ①調査	【予習】事前に与えられた課題(疾患症例)に対して、代表的な薬物療法、薬物療法を施す際の薬剤師の姿勢・行動、知識・責務、倫理ならびに技能等について参考書や資料を調査してまとめる。	
	第10回	②調査のまとめ	課題についてグループ全員で検討し、適切な治療薬を選択するため、生化学的検査や画像診断、症状から判断される必要な調査項目を選定し、各自がその項目を分担して調べる。	
	第11回	③グループワーク	調査終了後、グループ内で調査結果を報告し合い、全体発表に向けて内容を整理し、発表の要点について、さらに検討を深める。	
	第12回	④全体発表・討論とまとめ	【予習】発表練習をしておくこと。【復習】全体発表評価表・貢献度評価表に批評されたコメントを読んでおくこと。	
	第13回			
	第14回			
	第15回			
	試験	試験は実施しない。		
授業の進め方		火、水曜日の3～5時限を用いて集中講義形式で行う。各Phase において、疾患関連のIRAT予習領域を指定するので、薬理学及び薬物治療学で関連する分野を勉強すること。各種疾患と治療薬に関する課題について調査する時間は十分あるので、チームで分担して調べ全体で討論して結論をまとめる。		
授業外学習の指示		自分で調べたことは、質疑応答ができるように内容を理解したうえで、コピーペーストではなく自分の言葉で発表できるようにすること。 （授業外学習時間： 毎週 120 分）		

教科書	特に無し
参考書	①「疾病と病態生理」豊島 聰監修、南江堂、6,000円、ISBN 978-4-524-40274-8 ②「薬物治療学」第4版 吉尾 隆他編集、南山堂、8,800円、ISBN 978-4-525-72051-3
参考URLなど	治療ガイドラインや薬品添付文書など
その他	5. 基礎的な科学力、6. 薬物療法における実践的能力、8. 研究能力 アドバンスト50%、大学独自10%

ループリック

評価規準 項目／観点		レベル高 ← 評価基準 → レベル低		
		例：模範的、レベル3	例：標準、合格、レベル2	例：要改善、不合格、レベル1
1	患者状態の評価	症状と身体所見、検査所見、画像所見、患者背景から患者状態を正確に把握することができる。	患者状態の評価のため、適切な検査項目、画像診断、患者背景の調査を挙げることができる。	患者状態の評価のため、検査項目、画像診断、患者背景の調査を挙げることができない。
2	治療薬の選択	適切な医薬品とその剤型の選定、中長期的投与計画の策定等を挙げることができる。	治療方針、治療薬選択、投与計画、用法用量を挙げることができる。	治療方針、治療薬選択、投与計画、用法用量を挙げることができない。
3	治療効果の評価	薬効や副作用判定に必要なモニター項目、投与期間、奏功性等を挙げることができる。	効果判定項目を挙げることができる。	効果判定項目を挙げることができない。
4				
5				
6				
7				